

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年6月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674200060
法人名	社会福祉法人 伸志会
事業所名	グループホーム のぞみ
所在地	鹿児島県薩摩川内市祁答院町蘭牟田2103番地6 (電話) 0996-31-8101
自己評価作成日	平成28年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・自然豊かな環境の中にあり、近くには湿地帯やベッコウトンボが見られる蘭牟田池自然公園がある。ホームには、温泉地ならではの温泉があり、ゆったりとお湯に浸かり、心と身体を癒しながら、のんびりと生活されています。
- ・同敷地内にクリニック、認知症デイサービス、隣接して同法人の特別養護老人ホーム等もあり、医療福祉の連携を取りながら、安心して生活できるようにしている。
- ・家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースを大切に、居室は畳を敷いてあり、ダンスや椅子等自宅で使っておられた物を持ってこられ、心地よい部屋作りをし、昼寝等一人でゆっくりとされる時間もある。家事等は持てる力を発揮して頂き、食事の準備の野菜切り、食後の食器洗い、洗濯物干し、たたみ等できる事はスタッフと一緒に役割を持ちながらやって下さっている。
- ・食事は管理栄養士の献立で管理され、月1回程度の給食委員会では、行事食や食事量の検討等も行っている。行事食(おせち料理、節分、ひな祭り、あく巻等)もですが、保存食(梅干、梅酒、らっきょう漬、干し大根作り等)も入居者様の力を借りて作り、季節を感じていただく機会としている。
- ・外出の機会として毎週火曜日にクッキングデイを設け、交替で買い物に出かけている。また季節の花見、お茶飲みに行く等計画している。
- ・レクリエーションも入居者様とのコミュニケーションの大切な時間と考え、関わりを持って楽しく過ごせるように様々な内容を考えて行うようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、敷地内に医療機関が併設され緊急時の対応などに連絡体制が整い、安心して生活できる。同法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンター等が隣接しており、災害時の協力関係も構築されている。
- ・地域の文化祭や芸能発表会の見物に行ったり、中学生の職場体験の受け入れ、ボランティアの訪問があり、踊りや健康体操・工作・折り紙等を通して交流を行っている。同法人の特別養護老人ホーム行事の花見や運動会・夏祭り等に利用者也参加し、地域住民との交流の場となっている。「のぞみ新聞」を地区のコミュニティ会長宅や地域包括支援センター等に配布し情報発信している。
- ・利用者個々人の楽しみや特技を把握し、保存食の梅干しやラッキョウ漬等を作ったり、将棋・ぬり絵などを楽しみながら、その人らしい生活ができるように支援を行っている。
- ・日常的には敷地内を散歩したり、毎週火曜日の「クッキングデイ」の買い物に職員と交代で出かけている。計画を立てて公園等に、紫陽花や桜を見に出かけている。
- ・管理者は職員育成に力を入れ資格取得に向けた支援を行っている。職員も明るく意欲的でチームワークが良い。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を見やすく、分りやすく掲示してあり、朝の申し送り時に復唱をし、実践に繋げている。	地域密着型の意義を踏まえた独自の理念で、玄関やホールに掲示し、パンフレットにも掲載している。理念に繋がるキャッチフレーズを毎年掲げている。申し送り時に復唱し、毎月の合同研修会でも話し合い、ケア会議等で振り返り、職員全体で共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にとはいかないが、病院受診時に近所の方と会われる事があり、話されている。また、ボランティアの訪問や特養の行事への参加はある。	地域の文化祭や芸能発表会の見物に行ったり、中学生の職場体験の受け入れ、2ヶ月に1回のボランティアの訪問があり、踊りや健康体操・工作・折り紙等を通して交流を行っている。同法人の特別養護老人ホームの行事の花見や運動会・夏祭り等に利用者也参加し、地域住民との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	高校生の実習や中学生の福祉体験学習の受け入れは行っているが、地域の方へ向けては生かしていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行っており、GHの取り組み、利用者様の状況等を報告し、いろいろな意見をいただいている・	会議は定期的開催している。事業所や利用者の状況・外部評価の報告などをして、意見交換を行っている。会議における助言で「のぞみ新聞」を自分たちだけでなく、役場やコミュニティの会長宅、地域包括支援センターに配布したらと意見があり、対応し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にも、市の担当者が参加して下さっている。その中で実情の報告をし、取り組みを伝えている。	市担当者とは、日頃から電話や窓口に出向き事業所の取り組みや利用者の相談、情報を交換して助言を貰っている。運営推進会議を通して協力関係もでき、市主催の介護保険サービス提供事業者連絡会にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ケアについて話し合いを常に行い、身体拘束へと繋がらないように心掛けている。帰宅願望が強く、落ち着かれない時は、やむを得ず施錠をすることがある。	マニュアルにそって月1回のケア会議や職員会議の話し合いで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中は玄関の施錠はせずに外出傾向の利用者には見守りや同行などを行い、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会やケア会議等で虐待防止の勉強会を行い、スタッフ全員で防止に努めている。言葉の虐待にも十分注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等で学ぶ機会があり、理解に努めているが、活用や支援までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際家族へ説明を十分に行い、理解、納得をしていただくよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回の家族会の他、面会にいられた時に話をし意見、要望をお聞きしている。利用者様とは居室や入浴時に話をする機会がある、面会簿に意見欄があり、感想、意見を書いていただいている。	利用者からは入浴時やひとりの時など、日々の関わりの中で要望等を聞き思いを把握している。家族からは面会や家族会の時の食事会や面会簿の意見欄・アンケート等で意見等を聞いている。2ヶ月に1回「のぞみ新聞」で近況報告をして意見を聞いている。出された要望により、レクリエーション時に音楽を流すなど反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やケア会議、または個別の面談等で意見や提案を表出する機会はある。	管理者は職員会議やケア会議、個別面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。提案により畳の居室をフローリングに改装するなど反映させた。車椅子の時、トイレに入りにくい等、トイレの間口を広げる件も検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談等で話をし、状況把握をして下さり、やりがいがあるよう、改善に向け努めて下さっている。また、定年後であっても各自が向上心を持って働けるような環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、月1回程度あり参加している。また、その他のいろいろな研修にも参加させてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のGHと昨年1回勉強会があり、交流や意見交換ができた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に会いに行き、不安なこと、要望などを聞いてGHでの生活を安心して過ごしていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の意見、要望等を話していただいている。また、お話をよく聞いて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族、施設スタッフ等にこれまでのことをよく聞いて、初期対応の支援に努めている・		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが介護するだけでなく、野菜切り、洗濯物たたみ等できることはお手伝いしていただいている。一人ひとりの得意とされる事を見極め、できることを伸ばし、共に過ごし支えあう関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同じ立場に立ち、本人様と関わり絆を深めていただけるよう、面会や行事参加など協力を得ながら共に支える関係を築いている。2ヶ月毎にのぞみ新聞とお手紙で近況報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか馴染みの場所へお連れすることは難しいが、受診時に知人の方々との交流もあり、面会に来て下さった方々には「いつでもいらして下さい」と声かけ等している。	一人ひとりの生活習慣を尊重している。クリニック受診時やデイサービス参加者との交流、家族や友人知人の訪問を奨励し、お茶を出すなど継続的関係が途切れないよう働きかけている。毎週火曜日の買い物でのあいさつ等、人や場との関係の継続に努めている。家族の協力で墓参なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席は仲のよい方や話や気の合う方が近くになるように考え、利用者様同士の関係がより良くなるようにしている。居室にいらっしゃる方には、体操、レク等の声かけをし、交流ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系列の特養に入所された方々とは行事等でお逢いする機会がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに話を聞き、困っている事、不安なことを聞き出し本人の思いを大切にしている。困難な方は、会議等で検討している。	日々の生活の中で、会話や表情・しぐさなどから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者からの情報を得たり、職員と連携をとって本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの様子を把握し、できること、好きなことをしていただいている。また自宅でされていたことを少しでも活かして生活できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや様子観察で心身状態の把握に努め、生活の中で有する力を早くに見極められるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を行い、スタッフ全員で話し合いをし、本人や家族にも意見や要望を聞いて介護計画を作成している。	本人や家族、必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。毎月、職員でケア会議を開き、個々の課題とケアの状況を把握している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人録に日々の様子やケアを記入している。申し送りや連絡帳に特記事項を記入しスタッフ全員で情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの要望や不足物の購入のお願いに対して、家族の方と相談しながら、本人の意に添うよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としての地域のボランティアさんの訪問や、のぞみ園の行事への参加、地域の奉納踊りの見学等、心豊かな暮らしを楽しめるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望がない限り、同敷地内にあるクリニックをかかりつけ医にさせていただき、適切な医療をすぐに受けられるようにしている。月2回の定期受診と早期受診と早期治療に努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ほとんどの利用者が敷地内の協力医療機関が主治医である。歯科や精神科は往診である。外科・整形外科は職員が付き添い、結果は家族に報告している。他科受診は家族対応で、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいないので、クリニックや同系列特養の看護職員に相談したり、協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、責任者が病院関係者と情報交換や相談をしながら、利用者が安心して治療ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアはしていないため、入所時に重度化した時の説明は行っている。そのような状態になられた時には、ご家族や本人と話し合いながら、利用者様にとって一番良いサービスを考えている。	契約時に、重度化や終末期に伴う方針を重要事項説明書の中で説明し同意を得ている。状況変化に伴い主治医の診断を踏まえ、何度も家族と話し合いしながら、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。ターミナルケアは行っていないので、医療機関や特別養護老人ホームへの移行になることも家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	D r . 勉強会や研修会等で備えはしているが、実践力としては不安な面があり十分ではない。A E D の設置もあり、研修会も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は定期的に行っているが、地震、水害の災害時の避難訓練を早急に行う必要がある、夜間想定 of 避難訓練に地域の消防団や近隣の方々にも参加していただき、協力体制を築きつつある。	火災訓練を消防署立ち合いのもと、年2回行っている。1回は夜間想定で地域消防団や近隣の家族や地域住民も参加している。誘導・避難場所・避難経路の確認、点検をしている。居室からの誘導の工夫や防火頭巾の用意もある。今後、地震や水害の避難訓練に取り組む必要性を課題にしている。非常時の米や水・缶詰等の備蓄がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けはその方のプライドを傷つけないよう心掛けているが、時々大声になったり、上から目線の声かけになったりする時がある。	勉強会や施設内研修会に参加し、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。マニュアルに沿って人としての尊厳を保てる言葉かけや対応に留意している。大きな声で名前を呼んだりしない、入室時にはノックをする、入浴やトイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行う等の支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、服選び、レクリエーションの内容、入浴の有無等、様々な場面で自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援に心掛けている。時には職員の都合になってしまうこともあるが、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は移動散髪車で定期的に支援し、行事や外出時のおしゃれの支援をしている。ひげそり、髪染め、マニキュア、お化粧等も支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理時の野菜切り、食後の食器洗い、台拭き、片付け等を個々の力を活かし、スタッフと一緒にされている。	月1回給食委員会があり、利用者の嗜好や食事形態を工夫した献立を作成している。行事食や糖尿病食等を話し合っている。週1回、利用者と職員とで買い物に出かけている。野菜切りや片づけを職員と一緒にいき、ラッキョウ漬けや梅干し・梅酒・味噌づくり等、保存食も一緒に作っている。年1回ファミリーレストランでの外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活記録に食事摂取、水分摂取量を残している。管理栄養士の立てた献立があり、栄養バランスは確保できている。一人ひとりの健康状態や病状に合わせた支援を行っている。水分量の少ない方は好みのものを飲んでいただく等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた口腔ケアを見守りながらしている。モアブラシで舌磨きをし、義歯洗浄剤も使用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつの使用はなく、排泄パターンを把握しながら、トイレへの声かけや誘導を行っている。昼間はできるだけトイレでの排泄を支援している。	個々の排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握して、昼間は声かけや誘導によるトイレでの排泄を支援している。夜間は、個々に合わせて対応し、羞恥心や不安へも気配りをしている。リハビリパンツから布パンツへ自立した事例があり、喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳摂取や10時のヨーグルト摂取で予防に努めている。排便チェックをし、服薬にて調整している方もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日、入浴される方もいらっしゃるが、体調に合わせ、また本人の希望時間(午前、午後)に添うように心掛けている。行事等のある時はスタッフの都合になってしまう時がある。	入浴は基本的に隔日であるが、利用者の体調や希望にそって毎日でも入浴できる。時間調整や変更などでも対応している。温泉入浴も楽しめるように支援している。入り口のカーテンを閉めたり、更衣の時など羞恥心に気配りして入浴介助している。入浴を拒む利用者は職員を変えたり、時間をずらすなど対応して、個々に応じた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとり、好きな時間に休 んでいただき、安心して休める ように照明や室温、湿度に気を つけている。休息は自由にして いただいているが、昼寝はその 方の睡眠状態により時間帯の 声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬の目的、副作用等の説明書 を確認し理解に努めている。服 薬時は誤薬のないように、名 前、日付け等を二人のスタッフ で確認をして服用していただい ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	塗り絵、テレビ視聴、五目並 べ、掃除等一人ひとりの生活 暦や力を活かした楽しみごとの 支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。	希望に添っての外出支援は難 しいが、行事等での外出や、週 1回のクッキングデイ、買い物 への外出支援、また家族と外出 ができるように支援している。	日常的には敷地内や近隣を散歩 したり菜園を見たりしている。 毎週火曜日の「クッキングデ イ」の買い物に交代で出かけて いる。計画を立てて公園等に、 紫陽花や桜を見に行ったり、家 族と一緒に自宅に帰り食事をし たり、墓参りに出かけたりして いる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かっており、一人ひとりの希望や力に応じて使用していただいている。「お茶飲みに行きましょう」の外出時にはお金を使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望があればいつでも電話をしていただいている。また贈り物が届いたらお礼の電話を掛けている。年賀状、暑中見舞いも一人ひとり書かれ送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分るよう、その時期の花を植えたり、生けたりして、季節感を味わえるようにしている。温度等には気をつけ、冷暖房の調整をこまめに行い、心地よく過ごされるようにしている。	共用空間は窓から四季を観察でき、採光は柔らかで、換気や温度・湿度に配慮し清潔である。壁には季節感を大切に飾りつけや利用者の作品・行事の写真・体操に使う変え歌の歌詞等が貼付してある。食事後、くつろぐソファも置かれ、ゆったりとして居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、ソファがあり、レクリエーションを楽しんだり、気の合った者同士、会話をされたり、TVを見たりし、それぞれ過ごされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンスや布団を持って来ていただいたり、家族の写真を飾られたり、またレクでの塗り絵や写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は畳敷きである。本人や家族と相談しながらタンスや寝具・テレビ・時計・家族の写真・暦等、家族の思いが伝わるものが持ち込まれている。塗り絵等の作品も飾ってある。安心して居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時の邪魔にならないよう置物を最小限にした空間作りをしている。手すりの設置もあり、場所(トイレ、居室、お風呂等)が分るように矢印や目印をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない